

専攻 教育実践高度化専攻
コース 授業実践リーダーコース
学籍番号 PO9037E
氏名 吉野義郎

1. 背景

日本大学の教授であった、故浜田靖一先生が組体操について「日本の学校体育の中ではかなり古い歴史を持ちながら、あまり、研究もされず、大きな発展もせず、今日に至っている。それではこの運動は現在行われていないのかというかと決してそうではない。現在、現場の先生方の間ではかなり関心が持たれているし、運動会やマスゲームでは主役的な役割さえしているのである。」と述べられている。その後、組み体操は現在でも高い確率で行われているにもかかわらず（後述アンケート結果 参照）、浜田先生の著作以外、指導書や教材は皆無と言っても過言ではない。その浜田先生の著作も小・中学校で使える指導書という類のものではなく、図解にて技を紹介しているといったもので組み方の説明はない。まさしく、あまり、研究もされず、大きな発展もせず、今日に至っている。

こういった状況の中で、私自身が25年間の保健体育教諭としてさまざまな現場やインターネット上に配信されている動画を見た上で感じることは、安全面での配慮に欠けていたり、適切な指導がされていなかったりする場面が多々あると言うことである。その結果として、組体操指導の中で、多くの事故が起き、怪我人が出ているのである。1988年には愛媛県で人間ピラミッドが崩れ、小学6年の男子児童が圧死したほか、1990年には福岡県で高校3年の男子生徒がピラミッドの崩壊により首の骨を折り、脊髄損傷の後遺症を残している。

筆者等が現在指導している組み体操は、従来のものとは異なる特徴を持つようになっている。即ち、①チアリーディングの要素を取り入れ、持ち上げたり、移動したり、跳んだりなどの動きがある。②基本は、昔からある形で、これに動作を加えたりしている。③以前の組体操とは違い、力より、むしろ、タイミングで完成させる。④一つの技から、次の動きへと展開がある。

以上のような背景から、これまで自分自身が研究を重ね、現場で実践してきた新しい組体操を、新・組体操と位置づけ、指導にあたる教員に向けたDVD教材とすることを試みた。

2. 計画と方法

はじめに、現状を把握し、現場の教員がどのようなことを望んでいるかを知るためにアンケートを実施した。その上でアンケート結果の要望に則り、動画による解説と写真を多数取り入れてのパワーポイント資料による説明の入ったDVD教材を創りあげることにした。そして、以下の7つの技の指導法のDVD教材に試みることにした。

| | | | |
|------------------------|-------------------|------------------|--------------|
| (1) 3段ピラミッド一気立ち(特徴①②④) | (2) 一気おうぎ(特徴②③) | (3) いもむし(特徴③④) | (4) 花(特徴③④) |
| (5) 開脚上げ(特徴①) | (6) トーテムポール(特徴①②) | (7) 人間起こし(特徴①③④) | (特徴は前述①～④より) |

更に、できあがったDVD教材を、現場の先生方に実際に使っていただき、評価・検証・改善し、より完成度の高い教材とすることに試みた。

改めて、このDVD教材作成の目的をまとめると次のようになる。(1)小・中学校の現場で安全に指導でき、参考になるようなDVD教材を完成する。(2)新・組体操、7種目の解説動画、分解写真による技の説明を詳しく示す。(3)作成過程でアンケート等により教材の改善を試み、同時に組体操の教育的価値をまとめる。

3. 結果と考察

3-1. 組み体操実施状況等に関するアンケート調査

兵庫県北阪神地区、全小学校84校、全中学校38校、計122校中、小学校61校、中学校37校、計98校からの回答を得た。その結果、小学校で97%、中学校で81%、計91%もの高い確率で、現在も組体操が実施されていることがわかった。また、小学校で81%、中学校で100%、計78%が指導書があればいいと答えていた。更に、指導書というよりは、映像・写真などを用いた実践集の方がよいといった意見が多かった。この結果をふまえ、前述したように、動画による解説と写真を多数取り入れたDVD教材を創りあげることにした。

3-2. サンプルDVD教材Ver1の作成とその評価（上原准教授の評価）

サンプルDVD教材の技を、筆者がいつも導入で使っている技、3段ピラミッド一気立ちと決め、現任校、伊丹市立天王寺川中学校の中村教諭と柔道部の生徒に依頼し、動画・写真撮影に取り組んだ。

筆者自身、25年のキャリアもあり、これまで何回も組体操の指導をしてきているので自信もあり、原稿なしでの動画撮影に臨んだ。動画と写真の編集をし、サンプルDVD教材を創り上げ、兵教大の上原准教授に見ていただいた。その結果、以下の指摘を受けた。①言葉の使い方が統一されていない。例えば、同じ箇所を、上・真ん中・下という場面があったり、3段目・2段目・1段目という場面がある。統一すべきである。②使う言葉の精査をするべきである。例えば、人選（→人の配置）、大きい・中ぐらい・小さい（→大柄・普通・小柄）、等、より適切な表現を用いるべきである。③同じことを何回も言っている場面があるので1回の説明でよい。④説明が間延びしないように要点をまとめて、できるだけ短いほうが見やすい。⑤以上のことをふまえ、やはり、説明原稿を作ったほうがよい。

3-3. 説明原稿を作成した上でのサンプルDVD教材Ver2の作成とその評価

前述の評価をふまえ、説明原稿を作り、これを拡大コピーしてビデオカメラの横で持ってもらい、それを見ながらの動画撮影とした。サンプルDVDを作り直し、中学校体育教師5名と小学校教師5名、計10名にアンケートを実施した。その結果、10名中8名がよくわかる、1名がわかると答えた。5名が指導ができる。4名が指導できそうであると答えた。

3-4. DVD教材の評価

7種目のDVD教材を創りあげ、現任校の教師はじめ計5名の中学校の体育教師に実際に使ってもらった。その結果、写真と動画の説明は初心者でもよくわかるという評価が多かったが、技の難易度がかめない、7種目以外の大技もあった方がよいなどの評価もあった。指導している様子から、基本的な技能・必要な体力にふれることも必要だと感じた。

3-5. 現任校での体育祭の実施とその反響

DVD教材の中に入っている7種目の技を中村教諭が指導し、DVD教材に入っていない大技の4種目を筆者が指導するという形で指導は進み、当日を迎えた。体育大会、トリの演技である組体操は、大成功。たくさんの観衆の前で、初の10段ピラミッドを成功することができた。その後、YouTube動画にアップロードした10段ピラミッドの映像は、アクセス数がうなぎ登りに急上昇し、現在、63万を超えている。そのことから、大きな話題となり、テレビ、ラジオ、新聞で取り上げられることになっていった。テレビでは、10月9日・ズームインサタデー、10月13日・ズームインスーパー、10月29日・ニュースTENなど5回以上、放映され、10月22日・朝日新聞の夕刊、10月31日・朝日中学生新聞

に掲載された。この展開に、現任校の校長先生はじめ、伊丹市教育委員会、PTAの方々、地域の方々等々たくさんの方が喜んでくれた。

3-6. DVD教材の評価と体育大会実施後の反響に基づいた新たなDVD教材の作成

使用してくれた先生方の評価と10段ピラミッドの反響に基づき、①組体操を行うために必要な基本的な体力を示す。②組体操を行うために必要な基本的な技能を示す。③DVD教材の中に入っている技の難易度を表わすために可能学年を示す。④DVD教材に入っている基本の7種目ではなく、大技のDVD教材を望んでいる教師に対応するために、技を追加する。以上の4点を網羅したDVD教材にするために、①組体操を行うために必要な基本的な体力・技能についての説明を付け加える。②技の可能学年を示し、「はじめにお読み下さい」の中に入れる。③DVD教材に入っていない大技4種目、シートとばし・ピラミッド歩き・1.5段人間起こし・立体ピラミッドを新たに追加したDVD教材とする。以上3点の改善点を付け加えたDVD教材とするために、再び、動画撮影をし、11種目の入った改訂版のDVD教材を完成させた。

4. おわりに

組体操は、学習指導要領の中では「体づくり運動」に属し、特に、「体力を高める運動」の効果がある。また、体力を高めることはもとより、コミュニケーション能力を育成している。例えば、自分たちのグループのピラミッドがうまくいかず崩れてしまった時には、自然と「ああでもない、こうでもない」と言葉によるコミュニケーションが行われ、どうしたら、自分たちのグループのピラミッドが成功するのか、互いに話し合っている。

また、生徒の事後アンケートにも、充実感・達成感・楽しかった等の感想がたくさんあったように、組体操は十分に体を動かす楽しさや心地よさを味合わせている。教員へのアンケート等と併せて、組み体操の教育的価値は次のようにまとめた。①人間を持ち上げたり、乗せて我慢したり、静止したりする動作は体力や調整力の向上につながる。②同じ目標に向かって挑戦する中で、コミュニケーションをとって協力したり団結することの大切さを学ぶ。③人間同士が、直接、触れ合い、肌のぬくもりを感じながら支え合ったりするなかで、仲間と心を合わせて難しい技や新しい技を完成させたり、タイミングを合わせて演技をすることにより、一体感や充実感・達成感を味わうことができる。

修学指導教員 増澤康男 溝邊和成
指導教員 増澤康男